

子どもたちへ贈る福島の民話劇

劇団120〇EN 第31回公演

あんじゅと ずしおう

脚本・演出／清野 和也

父と母にふたたび会うために…

運命に立ち向かう姉弟の物語。

当日の参加も可

無料

各回定員170名様

事前のご予約をおすすめ
しています。



令和3年

5月8日 土

14:00開演(13:30開場)

5月9日 日

11:00開演(10:30開場)

会場 キョウワグループ・テルサホール
(福島テルサ) FTホール

お申し込み

劇団120〇ENホームページ

<https://120en.com/order31/>



主催／福島市・公益財団法人福島市振興公社 協力／劇団120〇EN

後援／福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、ふくしまFM、ラジオ福島、
FMボコ、テルサ通り親交会、阿武隈急行株式会社

お問合せ

キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

TEL.024-521-1500

<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/terrsa/>

※本公演は新型コロナウイルス感染防止対策を講じて開催いたします。



子どもたちへ贈る福島の民話劇

劇団120〇EN 第31回公演

あんじゅと ずしおう



平安時代の終わりごろ。

陸奥国(むつのくに)の太守(たいしゅ)・平正氏が、無実のつみでふるさとから
遠く離れた町へと追いやられてしまいます。残された娘の安寿(あんじゅ)と厨子王(ずしおう)は、
母といっしょに、たいせつな父にもう一度会うために、旅に出ます。
しかし、旅のとちゅうで悪いひとたちにだまされて、母ともはなればなれになってしまい…。
安寿と厨子王は、それでも手をとりあって、ふたたび父と母に会うために、運命に立ちむかいます。

この街がもっと面白くなる、劇団120〇ENの民話劇第2弾は、
日本全国で民話として語り継がれる2人の姉弟、安寿と厨子王のお話。
福島市は彼らの母の故郷で、弁天山には彼らの父といわれる
磐城判官の「椿館」(つばきだて)があったとも言われています。

出演者 鈴木優斗、奈良夏妃、佐川翔、霜山亜美、本田真也 ほか



劇団120〇EN(げきだんひやくにじゅうえん)?



「福島に住む人々のルーツを辿る演劇集団」として、福島市に伝わる歴史や民話を
下敷きにした、福島だからこそ観ることの出来る演劇を探し、定期的に上演している。
震災直後の2011年4月旗揚げ。夢奏蔵を使った仕事終わりの短編演劇ロングラン
公演や、じょーもぴあ宮畑の縄文遺跡をそのまま舞台にした野外縄文劇など、様々な
スタイルで公演を行っている。2020年には、親子で楽しむ民話劇として『信夫狐の
鴨左衛門』を上演。大人から子どもまで楽しめる劇と好評を得た。

●受賞歴

日本劇作家協会東北支部主催 短編演劇コンクール・東北劇の陣(2018年)
東北王(優勝)／観客賞／審査員特別賞・脚本賞／審査員特別賞・男優賞

神奈川かもめ「短編演劇」フェスティバル2019

全国選抜団体ノミネート／審査員特別賞 渡辺えり賞(那須大洋)



〒960-8101 福島市上町4番25号

催し・会議・研修・宴会は
快適なテルサで!

交通のご案内

福島駅より徒歩10分
福島西I.C.より車で20分
福島飯坂I.C.より車で15分

駐車場のご案内

福島テルサ駐車場 24時間営業
ご利用料金 30分100円

▶福島テルサご利用の方 2時間無料
1Fフロントに駐車券をご提示ください。

